

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地	
鹿児島キャリアデザイン専門学校		昭和63年12月19日		東 祐二		〒 891-0141 (住所) 鹿児島市谷山中央二丁目4173番地 (電話) 099-267-2411	
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地	
学校法人原田学園		昭和34年10月20日		原田 賢幸		〒 891-0141 (住所) 鹿児島市谷山中央二丁目4118番地 (電話) 099-268-3101	
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度		
衛生	衛生専門課程	ビューティ・ウェディング科 (エステティックコース)	令和3年度	—	平成29年度		
学科の目的	エステティックの分野では専門知識と技術を身につけ、高度資格の取得を目指す。また、接客力(コミュニケーション、カウンセリング)が求められる業種であり、接客マナーを含めた内容とともに企業との連携を行い、実践的な実業を取り入れることで「美」のスペシャリスト育成を目的とする。						
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	取得可能な資格:AJESTHE上級認定エステティシャン, AJESTHE認定エステティシャン, AJESTHE認定衛生管理者, ジェルネイル技術検定初級, ネイリスト技能検定, JMAセルフメイク検定試験, 色彩活用パーソナル検定, 秘書実務検定, リテールマーケティング検定 中退率:20%						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	※単位時間、単位いずれかに記入 1,710 単位時間 単位	420 単位時間 単位	960 単位時間 単位	330 単位時間 単位	0 単位時間 単位	0 単位時間 単位
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)				
30人の内数	6人	0人	0%				
就職等の状況	■卒業者数(C) : 2人						
	■就職希望者数(D) : 2人						
	■就職者数(E) : 2人						
	■地元就職者数(F) : 2人						
	■就職率(E/D) : 100%						
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) : 100%						
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C) : 100%						
	■進学者数 : 0人						
	■その他						
	(令和4年度卒業者に関する令和5年5月1日時点の情報)						
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL						
当該学科のホームページURL	<a href="https://www.harada-gakuen.ac.io/career/subject/beauty/">https://www.harada-gakuen.ac.io/career/subject/beauty/</a>						
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)						
	総授業時数		240 単位時間				
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		0 単位時間					
うち企業等と連携した演習の授業時数		12 単位時間					
うち必修授業時数		240 単位時間					
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		0 単位時間					
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		12 単位時間					
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		0 単位時間					
(B: 単位数による算定)							
総授業時数		単位					
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		単位					
うち企業等と連携した演習の授業時数		単位					
うち必修授業時数		単位					
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		単位					
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		単位					
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		単位					
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)		3人				
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)		1人				
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)		0人				
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)		0人				
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)		0人				
	計		4人				
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		3人					

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地					
鹿児島キャリアデザイン専門学校	昭和63年12月19日	東 祐二	〒 891-0141 (住所) 鹿児島市谷山中央二丁目4173番地 (電話) 099-267-2411					
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地					
学校法人原田学園	昭和34年10月20日	原田 賢幸	〒 891-0141 (住所) 鹿児島市谷山中央二丁目4118番地 (電話) 099-268-3101					
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度			
衛生	衛生専門課程	ビューティ・ウェディング科 (コスメチックコース)	令和3年度	-	平成29年度			
学科の目的	メイク・コスメチックの分野では専門知識と技術を身につけ、高度資格の取得を目指す。また、接客力(コミュニケーション、カウンセリング)が求められる業種であり、接客マナーを含めた内容とともに企業との連携を行い、実践的な授業を取り入れることで「美」のスペシャリスト育成を目的とする。							
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	取得可能な資格:日本化粧品検定、メイクアップ技術検定、メイクセラピー検定、シェウエムラメイクアップ技術検定、JMAセルフメイク検定試験、ジェルネイル技術検定、ネイリスト技能検定、色彩活用パーソナル検定、AJESTHE認定フェイシャルエステティシャン、AJESTHE認定衛生管理者、秘書技能検定、リテールマーケティング検定 中退率:7%							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技	
2年	昼	※単位時間、単位いずれかに記入	1,710 単位時間	420 単位時間	960 単位時間	330 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			単位	単位	単位	単位	単位	単位
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)					
30人の内数	3人	0人	0%					
就職等の状況	■卒業者数(C)		11	人				
	■就職希望者数(D)		11	人				
	■就職者数(E)		11	人				
	■地元就職者数(F)		10	人				
	■就職率(E/D)		100	%				
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		91	%				
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		100	%				
	■進学者数		0	人				
	■その他							
	(令和 4年度卒業者に関する令和5年5月1日時点の情報)							
■主な就職先、業界等 (令和4年度卒業生) ビューティ業界(コスメチック販売等)、ヘアメイク、衣料品販売、イベント企画								
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載		無					
当該学科のホームページURL	<a href="https://www.harada-gakuen.ac.jp/career/subject/beauty/">https://www.harada-gakuen.ac.jp/career/subject/beauty/</a>							
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A:単位時間による算定)							
	総授業時数					75 単位時間		
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数					0 単位時間		
	うち企業等と連携した演習の授業時数					15 単位時間		
	うち必修授業時数					75 単位時間		
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数					0 単位時間		
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数					15 単位時間		
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)					0 単位時間		
	(B:単位数による算定)							
	総授業時数					単位		
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数					単位		
	うち企業等と連携した演習の授業時数					単位		
	うち必修授業時数					単位		
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数					単位		
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数					単位		
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)					単位		
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)					3人		
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)					1人		
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)					0人		
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)					0人		
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)					0人		
	計					4人		
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数					3人			

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地		
鹿児島キャリアデザイン専門学校		昭和63年12月19日		東 祐二		〒 891-0141 (住所) 鹿児島市谷山中央二丁目4173番地 (電話) 099-267-2411		
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地		
学校法人原田学園		昭和34年10月20日		原田 賢幸		〒 891-0141 (住所) 鹿児島市谷山中央二丁目4118番地 (電話) 099-268-3101		
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度	
衛生	衛生専門課程		ビューティ・ウェディング科 (ブライダルコーディネートコース)		令和3年度	-	平成29年度	
学科の目的	ブライダル・コスチュームの分野では専門知識と技術を身につけ、高度資格の取得を目指す。また、コーディネーター・プランナーとして(営業力・発想力・実現力)が求められる職種であり、接客マナーを含めた内容とともに企業との連携を行い、実践的な授業を取り入れることで「婚」のスペシャリスト育成を目的とする。							
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	取得可能な資格: one-W認定試験、少額短期保険募集人、ブライダルコーディネート技能検定、色彩活用パーソナルカラー検定、ジェルネイル技術検定、ネイリスト技能検定、JMAセルフメイク検定試験、AJESTHE認定フェイシャルエステティシャン、AJESTHE認定衛生管理者、秘書実務検定、リテールマーケティング検定 中退率: 4%							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	※単位時間、単位いずれかに記入	1,710 単位時間 単位	810 単位時間 単位	570 単位時間 単位	330 単位時間 単位	0 単位時間 単位	0 単位時間 単位
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)			
30人の内数	12人		0人		0%			
就職等の状況	■卒業生数(C)		13人					
	■就職希望者数(D)		13人					
	■就職者数(E)		13人					
	■地元就職者数(F)		12人					
	■就職率(E/D)		100%					
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		92%					
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		100%					
	■進学者数		0人					
	■その他							
	(令和4年度卒業生に関する令和5年5月1日時点の情報)							
■主な就職先、業界等 (令和4年度卒業生) ブライダル業界(婚礼会場、ホテル、レストラン、衣装店)、ジュエリー業界								
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載		無		評価結果を掲載したホームページURL			
当該学科のホームページURL	URL: <a href="https://www.harada-gakuen.ac.jp/career/subject/beauty/">https://www.harada-gakuen.ac.jp/career/subject/beauty/</a>							
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)							
	総授業時数		300 単位時間					
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		0 単位時間						
うち企業等と連携した演習の授業時数		0 単位時間						
うち必修授業時数		300 単位時間						
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		0 単位時間						
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		0 単位時間						
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		0 単位時間						
(B: 単位数による算定)								
総授業時数		単位						
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		単位						
うち企業等と連携した演習の授業時数		単位						
うち必修授業時数		単位						
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		単位						
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		単位						
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		単位						
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)		3人					
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)		1人					
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)		0人					
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)		0人					
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)		0人					
	計		4人					
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		3人						

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

企業や関係団体等と連携を図り、新たに必要となる実務に関する知識・技術・技能を授業科目や授業内容に反映し、学生に教授していく為、企業や関係団体等からの意見を十分に活かし、カリキュラムを見直し、改善を図る等の教育課程の編成を行う。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

(1)の基本方針に従い、教育課程編成委員会を設置し、各学科の教科構成について実務に必要とされる知識・技術・技能などが、該当する学科のカリキュラムに反映されているかを確認する。  
教育課程編成委員会で指摘を受けた内容について、各学科にて分析・検討し、改善すべき項目を委員長である学校長に報告する。学校長が必要と判断した場合には、改善点を各学科の教育責任者に指示する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
宮之原 明子	鹿児島ウエディング協議会 理事	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日(2年)	①
是枝 幸枝	マレア株式会社 代表取締役	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日(2年)	③
黒鳥 美津代	ラヴィサンシヤンプルドボーテ 代表	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日(2年)	③
柴田 絵麻	ポーラザビューティーアクロスプラザ与次郎店オーナー	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日(2年)	③
東 祐二	鹿児島キャリアデザイン専門学校 校長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日(1年)	—
小原 博昭	鹿児島キャリアデザイン専門学校 ビューティ・ウエディング科長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日(1年)	—
児玉 律子	鹿児島キャリアデザイン専門学校 ビューティ・ウエディング科教員	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日(1年)	—
前田 知佳	鹿児島キャリアデザイン専門学校 ビューティ・ウエディング科教員	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。  
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合には、種別の欄は空欄で構いません。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(7月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年8月10日 15:00～16:30

第2回 令和5年2月21日 17:30～18:50

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

来年度はより一層外部イベントの開催も活性化すると考えられる。積極的な参加は勿論のこと、「在校生が何をやりたいか」をしっかりヒヤリングして計画から実施をしてほしい。最後の学生に貴重な体験をさせてほしい。

- 1 新型コロナウイルス感染拡大のため開催できなかったが、「スチューデントサロン」の予約は新規客を優先し、リピーター専用時間を設けて対応したい。また、衛生管理の観点から時間に余裕のある予約枠設定に変更し実施する。
- 2 新型コロナウイルス感染リスクを慎重に検討し、今回外部宿泊施設主催のハロウィン企画でヘアメイクを施術した。また、昨年同様に校内学生を対象とした「メイクレッスン」実施に取り組みたい。
- 3 学生プロデュースへの依頼まで回復はしておらず、「メルベユ・ウエディング」は実施できなかったが、TV映像音響科舞台コースと合同で「ライブホール模擬挙式」をした。

今後は、在校生が求める外部・内部イベントを関係協会、企業の協力を得て検討して実施していきたい。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

実習、実技、演習等は専修学校の教育にとっては非常に重要なものであるため、常に最新の技術や技能を教授する必要がある。そのために本校と企業や関係団体等が密接に連携した体制を構築し、より実践的な職業教育の質の確保ができるよう組織的に取り組む。

また、連携を行う企業等とは協定書等を締結し、校内外で実施される実習・演習等について、指導内容やその学修成果の評価等も含めて、実践的な職業教育を行うものとする。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

(1)の基本方針に従い、次の項目について連携を行う。

- ①カリキュラムの作成
- ②実習・演習の計画及び実施
- ③成績評価及び進級判定等に関する助言
- ④その他の実習運営上に必要となる事項

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
フェイシャルエステティックⅡ	1年前期で習得したフェイシャルエステティックのそれぞれの工程の意味を理解し、肌タイプの見極めやお客様の肌のお悩みを解消できる的確なトリートメントプランを提案できるよう学び、認定エステシヤンの資格取得を目指す。 2年次ではエステティックに関するフェイシャルの基礎理論・技術を理解し、肌タイプの見極めやお客様の悩みに対して適正なトリートメントプランをたて、的確なホームケアアドバイスを伝えられるよう学び、「AJESTHE認定上級エステシヤン」資格取得を目指す。  ※対象: エステティックコース	株式会社カレン商事
メイクⅡ	コスメチック商品を取り扱う美容のプロを育成する。1年次では、化粧品の基本的なステップと肌のしくみや機能を正しく理解し、化粧品検定3級レベルの全てを知識として身につける。 2年次では、皮膚の構造や肌悩みに対する化粧品の選び方やメイク法、美肌に導く美容知識を習得し、化粧品検定2級取得を目標とする。  ※対象: コスメチックコース	ポーラザビューティ アクロスプラザ与次郎店
ブライダル総論Ⅱ	「ブライダル総論Ⅰ」の基本知識をベースに、日本および世界の文化、国や行政機関が制定した法令、地域の習慣、国内外の宗教、儀礼、作法など幅広い応用知識を習得し、結婚および結婚式・披露宴に関わる専門知識と演出やプログラムなどの企画・提案のプロデューサーとしての役割や打合せ内容通りの施行を行うオペレーション能力を学ぶ。2年次1月実施のブライダルコーディネーター技能検定(国家資格)3級合格を目指す。  ※対象: ブライダルコーディネーターコース	株式会社エムファーム

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

教員等の研修に関する諸規程第2条のとおり、教員は業務経歴や能力、担当する授業の分野に応じて、実務に関する知識、技術、技能の修得および学生に対する指導力等を修得するために、企業等と連携を図り、研修等を計画的に受講し、常に自己研鑽に努め、教育水準の向上を図る。

<b>(2) 研修等の実績</b>		
<b>①専攻分野における実務に関する研修等</b>		
研修名:	第1回オンラインセミナー	連携企業等: 全米ブライダルコンサルタント協会
期間:	令和4年5月25日(水)	対象: 1名
内容	①人気フラワー&ウェディングデザイナーによるトレンド紹介 ②SDGs取組みによる業界・お客様それぞれの効果・メリット	
研修名:	AJESTHE Webセミナー PART1「背中(横向き)・デコルテ・首・顔・ヘッド」	連携企業等: 日本エステティック協会
期間:	令和5年1月17日(火)	対象: 1名
内容	①フィール・メゾットについて ②技術デモンストレーション「背中(横向き)・デコルテ・首・顔・ヘッド」	
研修名:	AJESTHE STANDARDの重要性「多様化する社会」でエステティックのすべきこと	連携企業等: 日本エステティック協会
期間:	令和5年2月6日(月)	対象: 1名
内容	多様化していく社会でエステティックが適応できること, 業界や協会が目指す社会展望について	
研修名:	AJESTHE Webセミナー PART2「背中・肩回り・腋窩・足首・膝回り」	連携企業等: 日本エステティック協会
期間:	令和5年2月14日(火)	対象: 1名
内容	①フィール・メソッドの復讐, 姿勢の取り方 ②技術デモンストレーション(背中・肩回り・腋窩・足首・膝回り)	
<b>②指導力の修得・向上のための研修等</b>		
研修名:	多面的にとらえる「心理的安全性」の本質	連携企業等: NTTラーニングシステムズ
期間:	令和4年6月1日(水)～オンデマンド配信	対象: 教員2名
内容	「発言しやすい環境づくり」だけでは陥る課題と推進策	
研修名:	大変化の時代に勝ち残る 専門学校経営戦略とは	連携企業等: (株)FCEエデュケーション
期間:	令和4年6月15日(水)	対象: 教職員6名
内容	「2039年ショック」に備える専門学校の勝ち残り戦略, 教育力の向上および主体的な学生を育成する教育機関になるために	
研修名:	心理支援の現状から見えること	連携企業等: 原田学園そうだん支援事業所
期間:	令和4年7月26日(火)	対象: 全教職員
内容	事例を交えた学園内の心理支援の状況報告と, そこから感じた教職員に必要なスキルのワーク	
研修名:	7つの習慣セルフコーチング	連携企業等: (株)FCEエデュケーション
期間:	令和4年8月1日(月), 5日(金), 22日(月)	対象: 全教職員
内容	セルフコーチングスキル=「ありたい自分になるために, 客観的に自分と対話する技術」を身に付け, 自分の「無意識の思い込み」に気づき, 「自己対話力」を高める。	
研修名:	令和4年度新任教員研修会	連携企業等: 職業教育・キャリア教育財団 鹿児島県研究研修事業支部委員会
期間:	令和4年8月23日(火)～25日(木)	対象: 教員3名
内容	「専修学校教育のあり方と授業実践」ほか専修学校教員として必要な基礎的知識の修得	
研修名:	能動的学修 (職業人としての汎用的能力を養うアクティブ・ラーニングの体験学習)	連携企業等: 職業教育・キャリア教育財団
期間:	令和4年9月5日(月), 6日(火)	対象: 職員1名
内容	アクティブ・ラーニングが必要とされる背景と考え方について	
<b>(3) 研修等の計画</b>		
<b>①専攻分野における実務に関する研修等</b>		
研修名:	第2回オンラインセミナー	連携企業等: 全米ブライダルコンサルタント協会
期間:	令和5年6月27日(火)	対象: 1名
内容	①LGBTの正しい理解と同性婚の現状&婚礼現場で起こり得ることとその対応 ②世界の同性婚? LGBT婚ビジネス&実例から学ぶ担当者会場がすべきこと	

研修名:	ブライダル講師のための勉強会	連携企業等:	ウエディングビューティフル協会
期間:	令和5年8月22日(火)	対象:	1名
内容	①インバウンドウエディングで注目の沖縄リゾートウエディングの今を知りたい ②沖縄リゾートウエディング研修のご紹介		
研修名:	AJESTHE Webセミナー「知っておきたい更年期のヘルスプロモーション」	連携企業等:	日本エステティック協会
期間:	令和5年10月24日(火)	対象:	1名
内容	①Around40:30代後半～40代前半の、プレメノポーズ(更年期)世代の女性特有の健康課題とより良い働き方 ②Around50:40代後半から50代半ばの、メノポーズ(更年期)世代の女性特有の健康課題とより良い働き方 ③Around60～:50代後半～60代以降の、ポストメノポーズ世代の女性特有の疾患とより良い働き方		

## ②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	7つの習慣セルフコーチング スキルアップ研修	連携企業等:	(株)FCEエデュケーション
期間:	令和5年6月22日(木), 28日(水)	対象:	教職員6名
内容	「7つの習慣セルフコーチング講座」実施に向けてのスキルアップ研修		
研修名:	防犯研修	連携企業等:	職業教育・キャリア教育財団
期間:	令和5年7月21日(金)	対象:	全教職員
内容	「さすまた」等を利用した不審者対応研修		
研修名:	データから見る2024年度入学生に求められる学生指導とは	連携企業等:	(株)進研アド
期間:	令和5年7月25日(火)	対象:	教職員8名
内容	入学者数減少と学力低下が専門学校教育に及ぼす影響		
研修名:	新任指導力(メンタリング)	連携企業等:	職業教育・キャリア教育財団
期間:	令和5年8月9日(水), 10日(木)	対象:	職員1名
内容	新任指導育成のための目標管理力/新任の能力を引き出すためのメンタリング力の修得		
研修名:	令和5年度新任教員研修会	連携企業等:	職業教育・キャリア教育財団 鹿児島県研究研修事業支部 委員会
期間:	令和5年8月22日(火)～24日(木)	対象:	教員4名
内容	「学生・教員のための実践心理」「専修学校における職業教育」ほか専修学校教員として必要な基礎的知識の修得		
研修名:	変化する社会に求められる人材の傾向と分析	連携企業等:	ベネッセコーポレーション
期間:	令和5年9月20日(水)～22日(金)	対象:	教職員2名
内容	社会の変化が及ぼす教育への影響, 企業への実態調査の報告, 専門学校の教育事例紹介		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

### (1)学校関係者評価の基本方針

教育活動その他の学校運営について、社会のニーズを踏まえた目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について自己評価を行うことにより、学校としての組織的・継続的な改善を図る。また、自己評価の結果に基づいて行う学校関係者評価の実施とその結果を公表することにより、適切に説明責任を果たすとともに、特色ある学校づくりを進めることにより、関連業界等のニーズを踏まえた質の高い職業教育を教授できるよう学校運営の改善と学校教育の発展を目指す。

### (2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	①学校の理念・目的は定められているか ②社会のニーズ等を踏まえた学生の将来構想を抱いているか ③学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか ④各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか

(2) 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 学園の運営方針に沿った事業計画が策定されているか</li> <li>② 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか</li> <li>③ 人事、給与に関する規程等は整備されているか</li> <li>④ 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか</li> <li>⑤ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか</li> </ul>
(3) 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 業界のニーズに沿った教育課程の編成を行っているか</li> <li>② 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか</li> <li>③ 学科等のシラバスは体系的に編成されているか</li> <li>④ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか</li> <li>⑤ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか</li> <li>⑥ 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか</li> <li>⑦ 授業評価の実施・評価体制はあるか</li> <li>⑧ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか</li> <li>⑨ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか</li> <li>⑩ 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか</li> <li>⑪ 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか</li> <li>⑫ 職員の能力開発のための研修等が行われているか</li> </ul>
(4) 学修成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 就職率の向上が図られているか</li> <li>② 資格取得率の向上が図られているか</li> <li>③ 就職先企業を訪問するなどして卒業生の実態を把握しているか</li> </ul>
(5) 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 進路・就職に関する支援体制は整備されているか</li> <li>② 学生相談に関する体制は整備されているか</li> <li>③ 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか</li> <li>④ 課外活動に対する支援体制はあるか</li> <li>⑤ 経済的支援制度利用についての情報提供を行っているか</li> <li>⑥ 必要に応じて保護者との連携が図られているか</li> <li>⑦ 卒業生への支援体制はあるか</li> <li>⑧ 高等学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか</li> </ul>
(6) 教育環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか</li> <li>② 学内外の実習施設、インターンシップ等について十分な教育体制を整備しているか</li> <li>③ 防災訓練を定期的実施しているか</li> </ul>
(7) 学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 学生募集活動は適正に行われているか</li> <li>② 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか</li> <li>③ 授業料等、徴収する金額はすべて明示しているか</li> </ul>
(8) 財務	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 学校の収支のバランスは取れているか</li> <li>② 予算編成は教育目標・業務計画と整合性があるか</li> <li>③ 財務について会計監査を適切に実施しているか</li> <li>④ 財務の情報公開はされているか</li> </ul>
(9) 法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか</li> <li>② 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか</li> <li>③ 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか</li> <li>④ 自己評価結果を公開しているか</li> </ul>
(10) 社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか</li> <li>② 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか</li> <li>③ 地域に対する公開講座やイベント支援等を積極的に実施しているか</li> </ul>



(11)国際交流	①留学生の受け入れを行っているか ②留学生の受け入れ, 在籍管理等において適切な手続き等がとられているか ③留学生の学修・生活指導等が適切に行われているか
----------	---

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

- 「1.教育理念・目標」に関し、「学生がより教育理念・目標を理解しやすくするために行動指針を添えてはどうか」とのご意見をいただいた。目指す職業が異なっても、全学生が社会人としてふさわしい行動ができるよう、ディプロマポリシー等に基づいた行動指針の策定に向けて、検討を進めていく。
- 「5.学生支援」に関し、卒業生への支援体制について改善の余地があるため、まずは卒業後にアクセスしやすくなるよう、ホームページの卒業生向けの内容を充実させる。そのうえで、Uターンや再就職等の更なる支援体制強化にも取り組んでいく。
- 「9.法令等の遵守」に関し、個人情報保護、肖像権、法令順守等について様々なご意見をいただいた。学校で取り扱う個人情報は幅広いため、現状の取り組みを確認するとともに、職員一人ひとりがより高い意識を持って個人情報保護や法令順守を行えるよう、研修その他各種注意喚起を行っていく。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和5年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
重山茂仁	株式会社鹿児島頭脳センター IT事業部 次長	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日(2年)	卒業生
大橋 紘一	社会福祉法人常盤会 顧問・理事	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日(2年)	企業等委員
宮之原 明子	株式会社清友 代表取締役	令和5年5月1日～ 令和7年3月31日(2年)	企業等委員
新納 武彦	鹿児島情報高校 校長	令和5年5月1日～ 令和7年3月31日(2年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) ( )

[https://www.harada-gakuen.ac.jp/career/files/joho-kokai/R04\\_gakkouhyouka.pdf](https://www.harada-gakuen.ac.jp/career/files/joho-kokai/R04_gakkouhyouka.pdf)

公表時期: 令和5年8月31日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

情報提供の方法は、誰もが比較的容易にアクセスすることが可能な本校ホームページにて公表する。  
また、企業や関係団体等の学校関係者に対しては、年度始めに学校関係者評価委員会を開催し、学校長より当該年度の運営方針等を説明し、様々な教育活動の情報の公表を行った上で、実践的な職業教育のための更なる連携を深めるよう依頼を行う。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	①教育理念 ②学校の概要(連絡先等) ③学校の沿革 ④学則等 ⑤「鹿児島キャリアデザイン専門学校」の3つのポリシー
(2)各学科等の教育	①修業年限・定員 ②学科紹介・取得可能な資格 ③「各学科」の3つのポリシー ④シラバス

(3)教職員	①組織図・教職員数
(4)キャリア教育・実践的職業教育	①就職支援 ②卒業後の進路(就職先一覧)
(5)様々な教育活動・教育環境	①学校行事 ②サークル紹介 ③施設紹介
(6)学生の生活支援	①学生寮紹介
(7)学生納付金・修学支援	①学生納付金(入学金・学費・併修費) ②奨学金・教育ローン ③各種免除制度
(8)学校の財務	①財務諸表等
(9)学校評価	①自己評価表 ②学校関係者評価
(10)国際連携の状況	①日本語科設置 ②アドバンス日本語科設置
(11)その他	①高等教育の修学支援制度における機関要件確認申請書 ②職業実践専門課程の基本情報について

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

**ホームページ** ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他( ) )

URL: [https://www.harada-gakuen.ac.jp/career/school/joho\\_koukai/](https://www.harada-gakuen.ac.jp/career/school/joho_koukai/)

公表時期: 令和5年9月29日

授業科目等の概要

(衛生専門課程ビューティ・ウェディング科エステティックコース)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○		キャリアデザイン	学校生活上必要な書類作成や学校行事(学園祭やイベント大会等)におけるクラス内の話し合いを行う「クラス運営」の時間にするとともに、科目「接遇マナー」の指導と連携しながら職業指導を中心に行い、スムーズな就職活動に繋げることを目的とする。学生、担任、キャリアセンターとの連携・コミュニケーションを図る。	1 2通	60	2	○			○		○		
2	○		接遇マナー	社会人としての心構え、正しい言葉遣いや電話対応などの基本的な知識や動作を学ぶ。教材をもとに基本を学習した後、応用へと発展させる。ロールプレイングを取り入れることで「解る」から「出来る」を目指し、就職活動に自信を持って取り組めるように学習する。更に秘書検定、リティールマーケティング検定対策も行う。	1 2通	120	4	○	△		○			○	
3	○		一般教養	毎回漢字検定に即した内容から漢字の小テストを行い、併せて就職試験「SPI」で頻出される問題や、一般教養問題など様々な分野の問題に取り組み、就職試験に備える。様々な問題の解法を理解するとともに、計算力や漢字能力の向上を目的とする。	1通 2前	45	2	○	△		○		○		
4	○		メイクⅠ	自分の顔を理解して魅力的なセルフメイクの知識と技術を習得し、セルフメイク検定合格を目指す。また、基本的なメイクアップサービスを習得する。	1通	90	3			○	○				○
5	○		ヘアアレンジ	ウィッグを使って、基本の一束結びから夜会巻きなど、幅広く学んでいく。また、「ヘア&メイク・フォトコンテスト2021」に向けて、オリジナル作品を完成させることを目的とする。	1通	60	2			○	○				○
6	○		ネイル	自分自身の身だしなみとしてのネイルケアや、お客様へアドバイスできる知識として、ネイルケアに関する知識と技術を、講義を交えながらの実習形式で学習する。また、近年ネイルサロンにて主流を占めるジェルネイルについて、基本的な知識と技術を習得し、最終的にはネイリスト技能検定3級、ジェルネイル検定初級合格を目標とする。	1 2通	180	6	△		○	○				○

7	○		パーソナルカラー	パーソナルカラーとは、その人自身が持っている肌・髪・眼などの色素をもとにした、「似合う色」のことである。1年次にはパーソナルカラーの基本について学び、2年次にはアドバイザーとしてクライアント(お客様)に最適なアドバイスをするための方法を学ぶ。自分自身の色素の特徴を知り、より魅力的に見せることができるとともに、ビューティ・ウェディング科で学習するメイクやネイル、ブライダルのコスチューム等と関連して、お客様へ最適なアドバイスができるようになることを目標とする。1年次は色彩活用パーソナルカラー検定3級、2年次は2級合格を目指す。	1 通 2 前	90	3	○		○		○							
8	○		衛生学	エステティックサロンなど美容系の衛生業務を行う施設・設備・器具などの衛生的管理及び消毒並びに従業員の健康管理の措置により、美容業務に関する衛生の向上及び安全確保の必要性を理解し、Ajesthe認定衛生管理者の資格取得を目指す。	1 通	30	1	○		○		○							
9	○		アロマテラピー基礎	アロマテラピーとは芳香療法と訳され、主に健康や美容ストレスに役立つ。近年ではアロマが多種多様に活用され華やかな場面での演出にも欠かせないものになりつつあり、アロマに対する知識・実践・提供のできる人が求められている。個人の目的に沿った精油を選び方より豊かなライフスタイルの提供、TPOに合わせた空間演出が発揮できる人材育成を目指す。	2 後	30	1	○	△		○							○	
10	○		コスチューム(洋装)	ブライダルにおける洋装スタイルのフィッティングについて学習する。フィッティングにおける体系補正やドレス補正の仕方を身に付け、コスチュームの仕事を理解する。	1 通	30	1	△	○		○							○	
11	○		コスチューム(和装) I	浴衣を自分で着る自装、他人に着せる他装を繰り返し練習することで、「きれい」に「着崩れしない」ように着る、あるいは着せる方法を身に付ける。また、小紋等の着物の着方法と、二重太鼓を練習する。着物を着た際の所作や、マナー、礼法等も学習し、それらが実践できるようになることを目標とする。	1 前	45	2		○		○						○		
12	○		エステティック学 I	現代社会では複雑化、高度化する環境への適合が出来ずに、人々はストレスを感じることも多く、「いつも美しく健康で過ごす」ことへの関心は年齢に関係なく、年々高まる傾向にある。このような背景から「人を癒しながら美しく健康を維持する」というスキータッチを重視したソワンエステティックの本質は予防医学の観点からみても高齢化が進む社会においても必要であり、これからさらに多くの人々から支持を得られると考えられる。「エステティック」の知識を学び、「認定フェイシャルエステティシャン」の資格取得を目指す。	1 前	30	1	△	○		○							○	

13	○		フェイシャル エステティク Ⅰ	フェイシャルエステティックに必要な基礎知識と理論を理解し、基本的なフェイシャルテクニックを習得することで、「認定フェイシャルエステティシャン」の資格取得を目指す。	1 前	90	3	△	○	○	○		
14	○		ブライダル 総論Ⅰ	ライフスタイルの変化や価値観の多様化、個性化にともないブライダル関連業界も変化への対応を求められている。こうした“業界の変化”にフレキシブルに対応できる人材を育成するため、まずブライダル業界の地域における風習や習慣を含む基本知識を学び、1年後期から行う他のブライダル科目(応用編)の骨格を習得することを目標とする。	1 前	45	2	○	△	○	○		
15	○		エステティク 学Ⅱ	皮膚科学や解剖生理学を通して、皮膚や身体の働きとしくみを理解し、美しく健康に保つための方法を学ぶ。また公衆衛生や関連法規を学ぶことで法令遵守の意識を育てる。エステティックに関する基礎的な知識を習得し、エステティックの本質と現状を知ること、エステティシャンとしての社会的な役割とホスピタリティ精神を育む。「認定エステティシャン」資格取得を目指す。	1 後	30	2	△	○	○		○	
16	○		フェイシャル エステティク Ⅱ	1年前期で習得したフェイシャルエステティックのそれぞれの工程の意味を理解し、肌タイプの見極めやお客様の肌のお悩みを解消できる的確なトリートメントプランを提案できるよう学び、認定エステティシャンの資格取得を目指す。 2年次ではエステティックに関するフェイシャルの基礎理論・技術を理解し、肌タイプの見極めやお客様の肌のお悩みに対して適正なトリートメントプランをたて、的確なホームケアアドバイスを伝えられるよう学び、「AJESTHE認定上級エステティシャン」資格取得を目指す。	1 後 2 通	240	8	△	○	○	○	○	
17	○		ボディエステ ティック	ボディエステティックのそれぞれの工程の意味を理解し、体型・体質の見極めやお身体のお悩みを解消できるトリートメントプランを提案できるよう学び、1年次は「認定エステティシャン」の資格取得を目指す。 2年次では基礎理論・技術をさらに深く理解し、適正なトリートメントプランをたて、お客様のお悩みに対して的確なホームケアアドバイスを伝えられるよう学び、「AJESTHE認定上級エステティシャン」の資格取得を目指す。	1 後 2 通	240	8	△	○	○	○		
18	○		エステティク 応用	基本的な接客マナーや電話対応に加え、エステティシャンとして必要なお客様への気配りも学習していくことで、学生サロンやサロン現場で生きる接客スキルを習得する。また、新規接客や様々なカウンセリング方法について学び、顧客心理に基づいた売上に繋がるトークスキルを習得する。	2 通	255	11	△	○	○		○	
合計					18科目			1,	710	単位時間(62単位)			

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	日数が、各学年の出席すべき日数の3分の2を超えており、教科の出席が時数の3分の2を超え、かつ教科の成績が不可（60点未満）でないこと。また、授業料等が完納していること。	1学年の学期区分	2期
履修方法：	一般科目、専門科目共に全科目を必修とする	1学期の授業期間	15週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(衛生専門課程ビューティ・ウェディング科コスメチックコース)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○		キャリアデザイン	学校生活上必要な書類作成や学校行事(学園祭やイベント大会等)におけるクラス内の話し合いを行う「クラス運営」の時間にするとともに、科目「接遇マナー」の指導と連携しながら職業指導を中心に行い、スムーズな就職活動に繋げることを目的とする。学生、担任、キャリアセンターとの連携・コミュニケーションを図る。	1 2通	60	2	○			○		○		
2	○		接遇マナー	社会人としての心構え、正しい言葉遣いや電話対応などの基本的な知識や動作を学ぶ。教材をもとに基本を学習した後、応用へと発展させる。ロールプレイングを取り入れることで「解る」から「出来る」を目指し、就職活動に自信を持って取り組めるように学習する。更に秘書検定、リテールマーケティング検定対策も行う。	1 2通	120	4	○	△		○				○
3	○		一般教養	毎回漢字検定に即した内容から漢字の小テストを行い、併せて就職試験「SPI」で頻出される問題や、一般教養問題など様々な分野の問題に取り組み、就職試験に備える。様々な問題の解法を理解するとともに、計算力や漢字能力の向上を目的とする。	1 通 2 前	45	2	○	△		○			○	
4	○		メイクⅠ	自分の顔を理解して魅力的なセルフメイクの知識と技術を習得し、セルフメイク検定合格を目指す。また、基本的なメイクアップサービスを習得する。	1 通	90	3			○	○				○
5	○		ヘアアレンジ	ウィッグを使って、基本の一束結びから夜会巻きなど、幅広く学んでいく。また、「ヘア&メイク・フォトコンテスト2021」に向けて、オリジナル作品を完成させることを目的とする。	1 通	60	2			○	○				○
6	○		ネイル	自分自身の身だしなみとしてのネイルケアや、お客様へアドバイスできる知識として、ネイルケアに関する知識と技術を、講義を交えながらの実習形式で学習する。また、近年ネイルサロンにて主流を占めるジェルネイルについて、基本的な知識と技術を習得し、最終的にはネイリスト技能検定3級、ジェルネイル検定初級合格を目標とする。	1 2通	180	6	△		○	○				○

7	○		パーソナルカラー	パーソナルカラーとは、その人自身が持っている肌・髪・眼などの色素をもとにした、「似合う色」のことである。1年次にはパーソナルカラーの基本について学び、2年次にはアドバイザーとしてクライアント(お客様)に最適なアドバイスをするための方法を学ぶ。自分自身の色素の特徴を知り、より魅力的に見せることができるとともに、ビューティ・ウェディング科で学習するメイクやネイル、ブライダルのコスチューム等と関連して、お客様へ最適なアドバイスができるようになることを目標とする。1年次は色彩活用パーソナルカラー検定3級、2年次は2級合格を目指す。	1 通 2 前	90	3	○			○								
8	○		衛生学	エステティックサロンなど美容系の衛生業務を行う施設・設備・器具などの衛生的管理及び消毒並びに従業員の健康管理の措置により、美容業務に関する衛生の向上及び安全確保の必要性を理解し、Ajesthe認定衛生管理者の資格取得を目指す。	1 通	30	1	○			○								
9	○		アロマセラピー基礎	アロマセラピーとは芳香療法と訳され、主に健康や美容ストレスに役立つ。近年ではアロマが多種多様に活用され華やかな場面での演出にも欠かせないものになりつつあり、アロマに対する知識・実践・提供のできる人が求められている。個人の目的に沿った精油を選び方より豊かなライフスタイルの提供、TPOに合わせた空間演出が発揮できる人材育成を目指す。	2 後	30	1	○	△		○							○	
10	○		コスチューム(洋装)	ブライダルにおける洋装スタイルのフィッティングについて学習する。フィッティングにおける体系補正やドレス補正の仕方を身に付け、コスチュームの仕事を理解する。	1 通	30	1	△	○		○							○	
11	○		コスチューム(和装)Ⅰ	浴衣を自分で着る自装、他人に着せる他装を繰り返し練習することで、「きれい」に「着崩れしない」ように着る、あるいは着せる方法を身に付ける。また、小紋等の着物の着方法と、二重太鼓を練習する。着物を着た際の所作や、マナー、礼法等も学習し、それらが実践できるようになることを目標とする。	1 前	45	2		○		○							○	
12	○		エステティック学Ⅰ	現代社会では複雑化、高度化する環境への適合が出来ずに、人々はストレスを感じることも多く、「いつも美しく健康で過ごす」ことへの関心は年齢に関係なく、年々高まる傾向にある。このような背景から「人を癒しながら美しく健康を維持する」というスキンタッチを重視したソワンエステティックの本質は予防医学の観点からみても高齢化が進む社会においても必要であり、これからさらに多くの人々から支持を得られると考えられる。「エステティック」の知識を学び、「認定フェイシャルエステティシャン」の資格取得を目指す。	1 前	30	1	△	○		○								○



13	○		フェイシャル エステティックⅠ	フェイシャルエステティックに必要な基礎知識と理論を理解し、基本的なフェイシャルテクニックを習得することで、「認定フェイシャルエステティシャン」の資格取得を目指す。	1 前	90	3	△	○	○	○								
14	○		ブライダル 総論Ⅰ	ライフスタイルの変化や価値観の多様化、個性化にともないブライダル関連業界も変化への対応を求められている。こうした“業界の変化”にフレキシブルに対応できる人材を育成するため、まずブライダル業界の地域における風習や習慣を含む基本知識を学び、1年後期から行う他のブライダル科目（応用編）の骨格を習得することを目標とする。	1 前	45	2	○	△	○	○								
15	○		メイクⅡ	コスメチック商品を取り扱う美容のプロを育成する。1年次では、化粧品の基本的なステップと肌のしくみや機能を正しく理解し、化粧品検定3級レベルの全てを知識として身につける。 2年次では、皮膚の構造や肌悩みに対する化粧品の選び方やメイク法、美肌に導く美容知識を習得し、化粧品検定2級取得を目標とする。	1 後 2 通	75	3		○	○	○	○							
16	○		メイク セラピー	心理カウンセリングに必要な「心理学」「コミュニケーション」、メイクアップに必要な「メイク理論」「色彩学」を学び、メイクセラピーの概念を総合的に理解し、メイクセラピー検定3級合格を目指す。心理概論に基づいたメイクセラピーの手法を取り入れ、半顔メイク実践練習を行い、2級検定技術を習得する。	1 後	45	2		○	○	○								
17	○		メイク応用	1年次後期は、JMAシューウエムラ技術検定を習得する。企業・施設などに学生を派遣し、短期間の実務経験を体験する。提供するメニューも学生自らプロデュースし、身に付けたネイル技術や浴衣の着付け、メイクレッスンなどを行う。また体験を通して身に付けるべき技術の習得に励み、次に繋がるプロの美容部員としてのスキルアップに努める事を目的とする。2年次後期には、2年間で身に付けた技術やデザイン力を駆使し、保護者向け卒業発表会を開催する。	1 後 2 通	600	22		○	○	○								
18	○		コスチューム(和装)Ⅱ	自分で留袖を着る、他人に留袖を着せる練習をし、「きれい」に「着崩れない」ように着る、あるいは着せる方法を身に付ける。また、着せるだけではなく、着崩れをしたときの修正の仕方等も学習し、ブライダル等の現場で実践できる知識と技術を身に付けることを目標とする。	1 後	45	2		○	○	○								
合計						18科目			1,710単位時間(62単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
日数が、各学年の出席すべき日数の3分の2を超えており、教科の出席要件：席が時数の3分の2を超え、かつ教科の成績が不可（60点未満）でないこと。また、授業料等が完納していること。	1学年の学期区分	2期
履修方法：一般科目，専門科目共に全科目を必修とする	1学期の授業期間	15週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(衛生専門課程ビューティ・ウェディング科ブライダルコーディネートコース)																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			キャリアデザイン	学校生活上必要な書類作成や学校行事(学園祭やイベント大会等)におけるクラス内の話し合いを行う「クラス運営」の時間にするとともに、科目「接遇マナー」の指導と連携しながら職業指導を中心に行い、スムーズな就職活動に繋げることを目的とする。学生、担任、キャリアセンターとの連携・コミュニケーションを図る。	1 2通	60	2	○			○		○		
2	○			接遇マナー	社会人としての心構え、正しい言葉遣いや電話対応などの基本的な知識や動作を学ぶ。教材をもとに基本を学習した後、応用へと発展させる。ロールプレイングを取り入れることで「解る」から「出来る」を目指し、就職活動に自信を持って取り組めるように学習する。更に秘書検定、リテールマーケティング検定対策も行う。	1 2通	120	4	○	△		○			○	
3	○			一般教養	毎回漢字検定に即した内容から漢字の小テストを行い、併せて就職試験「SPI」で頻出される問題や、一般教養問題など様々な分野の問題に取り組み、就職試験に備える。様々な問題の解法を理解するとともに、計算力や漢字能力の向上を目的とする。	1 通 2 前	45	2	○	△		○		○		
4	○			メイクⅠ	自分の顔を理解して魅力的なセルフメイクの知識と技術を習得し、セルフメイク検定合格を目指す。また、基本的なメイクアップサービスを習得する。	1 通	90	3				○	○			○
5	○			ヘアアレンジ	ウィッグを使って、基本の一束結びから夜会巻きなど、幅広く学んでいく。また、「ヘア&メイク・フォトコンテスト2021」に向けて、オリジナル作品を完成させることを目的とする。	1 通	60	2				○	○			○
6	○			ネイル	自分自身の身だしなみとしてのネイルケアや、お客様へアドバイスできる知識として、ネイルケアに関する知識と技術を、講義を交えながらの実習形式で学習する。また、近年ネイルサロンにて主流を占めるジェルネイルについて、基本的な知識と技術を習得し、最終的にはネイリスト技能検定3級、ジェルネイル検定初級合格を目標とする。	1 2通	180	6	△			○	○			○

7	○		パーソナルカラー	パーソナルカラーとは、その人自身が持っている肌・髪・眼などの色素をもとにした、「似合う色」のことである。1年次にはパーソナルカラーの基本について学び、2年次にはアドバイザーとしてクライアント(お客様)に最適なアドバイスをするための方法を学ぶ。自分自身の色素の特徴を知り、より魅力的に見せることができるとともに、ビューティ・ウェディング科で学習するメイクやネイル、ブライダルのコスチューム等と関連して、お客様へ最適なアドバイスができるようになることを目標とする。1年次は色彩活用パーソナルカラー検定3級、2年次は2級合格を目指す。	1 通 2 前	90	3	○		○		○							
8	○		衛生学	エステティックサロンなど美容系の衛生業務を行う施設・設備・器具などの衛生的管理及び消毒並びに従業員の健康管理の措置により、美容業務に関する衛生の向上及び安全確保の必要性を理解し、Ajesthe認定衛生管理者の資格取得を目指す。	1 通	30	1	○		○		○							
9	○		アロマテラピー基礎	アロマテラピーとは芳香療法と訳され、主に健康や美容ストレスに役立つ。近年ではアロマが多種多様に活用され華やかな場面での演出にも欠かせないものになりつつあり、アロマに対する知識・実践・提供のできる人が求められている。個人の目的に沿った精油を選び方より豊かなライフスタイルの提供、TPOに合わせた空間演出が発揮できる人材育成を目指す。	2 後	30	1	○	△		○							○	
10	○		コスチューム(洋装)	ブライダルにおける洋装スタイルのフィッティングについて学習する。フィッティングにおける体系補正やドレス補正の仕方を身に付け、コスチュームの仕事を理解する。	1 通	30	1	△	○		○							○	
11	○		コスチューム(和装) I	浴衣を自分で着る自装、他人に着せる他装を繰り返し練習することで、「きれい」に「着崩れしない」ように着る、あるいは着せる方法を身に付ける。また、小紋等の着物の着方法と、二重太鼓を練習する。着物を着た際の所作や、マナー、礼法等も学習し、それらが実践できるようになることを目標とする。	1 前	45	2		○		○							○	
12	○		エステティック学 I	現代社会では複雑化、高度化する環境への適合が出来ずに、人々はストレスを感じることも多く、「いつも美しく健康で過ごす」ことへの関心は年齢に関係なく、年々高まる傾向にある。このような背景から「人を癒しながら美しく健康を維持する」というスキンタッチを重視したソワンエステティックの本質は予防医学の観点からみても高齢化が進む社会においても必要であり、これからさらに多くの人々から支持を得られると考えられる。「エステティック」の知識を学び、「認定フェイシャルエステティシャン」の資格取得を目指す。	1 前	30	1	△	○		○								○



19	○		フォト技術	「SNS」「コスチューム和装」「コスチューム洋装」の授業に連動し、屋内・野外でモデルを携帯カメラで撮影する場合の、SNS投稿写真の知識や技術を学ぶ。また、一眼レフカメラで撮影した場合の、ブライダルフォトとしての知識・技術を学ぶ。撮影した写真の編集・加工も併せて習得する。	1 後 2 通	60	2	△	○	○	○
20	○		コーディネーター実務	ウェディングコーディネーターとして必要な、現場での知識を身に付ける。接客マナーや電話対応など基本的なことから、お客様心理など営業の知識を学習し、「施行」課程においては単価アップ・売上確保などのほかに、経営の仕組みや利益・原価率・経常利益など、会社員として必要な会社の仕組み、お金の仕組みを学習する。就職後、そのまま使用できる現場レベルでのスキルを学習する。	2 通	165	6	△	○	○	○
21	○		ウェディング応用	1年次に学んだ「メイクⅠ」「ヘアアレンジ」「コスチューム(和装)」「コスチューム(洋装)」の基礎および応用技術をさらに発展させて、ブライダルの現場で実践している応用技術や、イレギュラー対応を習得する。	2 後	105	4		○	○	○
合計				21科目		1,710単位時間(62単位)					

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
日数が、各学年の出席すべき日数の3分の2を超えており、教科の卒業要件：席が時数の3分の2を超え、かつ教科の成績が不可(60点未満)でないこと。また、授業料等が完納していること。		1学年の学期区分	2期
履修方法：一般科目、専門科目共に全科目を必修とする		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。